

六月一日

今朝から地下に人間を入れる事にした。前からの予定通りなのだが、まだ十分な仕事環境ではないが、一階の窓も塞がっていない、床も仕上がっていないのだが、敢えてその中で院生を一人勉強させる。大学の研究室は研究室でそれなりの事ができるが、当然大学は学生の場所でもあり、その生活によって規程されざるを得ない。地下の最初は一人だけが良い。地下にはスタッフ、院生十八名程を入れた事があつたが、アツという間にサークル空間になつた。カルピス状況である。もうアノ状態は嫌だ。八時過地下を点検し、一階ピロティ部でブーツとしている。雨が強く降っている。アレツ、今、前橋の森田工業のトラックが現場に來た。二代目の息子さんが再び下見に來たようだ。八時半院生一人來る。森田君歸る。來週から工事に入るそうだ。こちらも色々と段取りをしなくては。九時半まで院生と話して研究室へ。十一時研究室典型的な雑事。午後西武線人間の鉄工所へ。回転ジグなる機械でアントニオ・ガウディ風ねじ曲げ工業製品の裸形を実験する。しかし機械はねじまがりを正確に成し遂げてしまい本当のヨイ形を作れない。回転ジグに貼りついてオペレーションをする時間と感覚を労費するのをいとわずには、本当に良いモノは得られないかも知れぬ。十九時半研究室に戻る。新木場倉庫打合わせ。ゼネコンにはモノづくりのスピリットを持った人間は居なくなつたのか。建設産業の自由化をいずれ迎えざるを得ない時に、つまりスーパ

ー現実の建設の現場に於いて日本は全て負けざるを得ない。早くその現実に気付くべきなのだが……。夕食は李祖原、グライタールと高田馬場、文隆で。彼等を東京に呼ぶことが出来たのがホンの一瞬の幸運に近いものであつたのを話せたのが、良かった。本当に日本のあやうさを告げるのは辛いのだ。日本は死を迎えた病氣なんだよね。国家はそれを救えない。当然。

六月二日

九時半地下へ。十時半グライター講義。「クラツシュするイコン」面白そうだったが、打合わせの為、最期まで聞けず。十一時半松尾建設。十三時過李祖原、グライターとGAへ。二川幸夫と会う。八月末の上海Gスタジオに二川さん來訪することになつた。十五時過五反田。トモコーポレーションへ。十八時過まで。二〇時世田谷村地下。